【 資料３ 】

西脇市立西脇病院経営基本計画

― 実施計画(案) ―

令和４年10月

1　策定の趣旨

近隣病院の統合や医療（介護）体制の改革など、西脇病院を取り巻く環境が変化するなか、将来を見据えつつ令和3年度からの5年間についての経営計画を策定し、今後の政策の展開方針を示しています。令和7年度を目標とする基本計画に掲げる政策・施策の推進を図るため、具体的に取り組む事業内容や活動方針を体系的に取りまとめ、実施計画を策定しました。

2　実施計画の期間

令和3年度から令和7年度までの5年間とします。毎年度、前年度の実績を踏まえ、当該年度の具体的計画と数値目標を設定した実施計画を策定します。

3　実施計画の体系図

事業運営の目標	施策	No.
【経営の効率化】		
診療機能の強化	特色ある医療の提供	
	がん治療	1
	脳卒中治療	2
	糖尿病治療	3
	精神疾患	4
	救急・災害への対応強化	5
	チーム医療の推進	6
	医療安全・感染対策の強化	7
経営基盤の確立	収入の確保	
	入院収益の確保	8
	外来収益の確保	9
	検診・健診への積極的な取組	10
	収入の確実な確保	11
	支出の削減	
	給与費、材料費、経費の削減	12
	適切な投資・施設整備管理	13
	医療技術部門の強化	
	薬剤部	14
	検査部	15
	放射線部	16
	リハビリテーション部	17
	栄養部	18
	臨床工学部	19
	患者満足度の向上	20
人材の確保・育成	医師・看護師等の確保	21
	医療技術職員の確保	22
	医療分析・経営分析に向けた職員の確保	23
	研修・研修制度の充実及び意欲向上	24
【再編ネットワーク】		
地域との連携、交流の強化	病病・病診連携の強化	25
	地域医療を守る活動の支援	26
	情報発信の強化	27

No.1　特色ある医療の提供
がん治療

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
がん診療連携拠点病院の継続 集学的治療及び緩和ケア提供体制の整備、標準的治療等の提供を行うとともに、地域医療機関等との連携を構築する。	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点病院更新。拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認	拠点要件の確認
緩和ケア食の構築 化学療法や放射線療法中の患者、ターミナルケアの患者に対し、患者のニーズに応じた食事提供が行えるよう食種の構築を目指す。	緩和ケア食の検討		緩和ケア食の立案、導入に向けた給食委託業者・病院スタッフとの調整	緩和ケア食の立案、導入に向けた給食委託業者・病院スタッフとの調整	緩和ケア食の導入	緩和ケア食の導入	緩和ケア食の導入
緩和ケアチームへの協力 緩和ケアチームが発動となった患者に対し、食事・栄養面からサポートを行う。 診断・治療早期からの介入をすすめる。 社会生活を維持するために社会保険労務士による相談の場を提供する。	がんサロンやひだまりサロン等の研修に講師として参加	緩和ケアチームへの参加予定	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。	食事・栄養面のサポート、診断、治療早期からの介入、社労士による相談の場を提供。
病診連携の強化 がん地域連携クリニカルパスを増やし、病診連携の強化を図る。	パス件数：10 件	パス件数：9件	パス件数：17件	パス件数：11件	パス件数：11件	パス件数：11件	パス件数：11件
人間ドックのオプション検査等 人間ドックのオプション検査化に伴い、PR強化による受診者数の増加を図る。	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新	健診システムの更新	健診システムの更新	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新	ホームページ・パンフレットの刷新
がん関連認定看護師等の取得 緩和ケア、疼痛緩和などがん関連の看護ケアの充実を図り、がん診療拠点病院として積極的ながん治療を行う。 資格取得者、経験者の再雇用により即戦力の強化。							
専門的ながん治療の提供 専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。 放射線治療の推奨。			専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。	専門的ながん治療体制の整備と提供を行う。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
新入院がん患者数	（人）	1,057	1,011	1,068	1,100	1,100	1,100	1,100
放射線治療延患者数	（人）	1,983	636	1,547	2,000	2,100	2,100	2,100
外来化学療法延患者数	（人）	1,239	1,049	1,242	1,200	1,200	1,200	1,200
がん患者リハビリ単位数	（件）	452	150	239	180	190	210	220
子宮がん検診	（人）	454	351	419	450	450	450	450
肺がん検診	（人）	150	132	153	150	150	150	150
乳がん検診	（人）	756	671	774	770	770	770	770
ABC検査	（人）	82	57	61	80	90	90	90
CT件数	（件）	16,194	16,058	16,677	16,750	16,750	16,750	16,750
MRI件数	（件）	6,188	5,678	5,389	5,750	5,750	5,750	5,750
RI件数	（件）	304	436	512	525	525	525	525
マンモ件数	（件）	1,510	1,248	1,417	1,500	1,500	1,500	1,500

No.2　特色ある医療の提供
脳卒中治療

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
クリニカルパスの効果的な運用 連携医療機関の回復期リハビリ病棟、療養型病棟への有効活用を行う。	連携件数128件	連携件数129件	連携件数101件	連携件数100件	連携件数100件	連携件数100件	連携件数100件
3.0テスラMRIの活用 北播磨圏域の医療拠点病院として、脳血管疾患の機能強化を図る。	フル稼働 2322件	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働	フル稼働
専門医の育成 脳卒中の専門医を育成する。							
脳卒中認定看護師の育成 脳卒中リハビリテーション認定看護師を育成する。							
摂食嚥下障害認定看護師の育成 摂食嚥下障害看護認定看護師を育成する。							
脳卒中の専門的治療の提供 脳卒中の専門的治療を提供する。	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する	脳卒中の専門的治療を提供する

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
パスによる紹介件数	(件)	128	129	104	100	100	100	100
脳卒中（脳外科）入院件数	(件)	466	448	368	400	400	450	450
脳血管治療件数	(件)	107	154	126	150	150	150	150

No.3　特色ある医療の提供
糖尿病治療

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
糖尿病教室 年2回開催し、食に関する知識の普及に努める。	5月、11月、12月に実施	夏季に実施	糖尿病レターの作成、指導媒体の作成	糖尿病レターの作成	糖尿病レターの作成	糖尿病レターの作成	糖尿病レターの作成
糖尿病患者への栄養指導 入院患者：適切な食事提供 栄養指導依頼提案 外来患者：継続的な栄養指導	実施	実施	実施	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。周術期入院前や外来化学療法の介入を進める。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。周術期入院前や外来化学療法の介入を進める。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。周術期入院前や外来化学療法の介入を進める。	入院時から外来への継続指導を主治医へ提案。周術期入院前や外来化学療法の介入を進める。
専門知識を持つスタッフの育成 糖尿病に関する認定栄養士を育成する。	カーボカウント研修3名参加、カーボカウント指導7名実施（H30）	日本糖尿病療養指導士の育成		日本糖尿病療養指導士の育成	日本糖尿病療養指導士の育成	日本糖尿病療養指導士の育成	日本糖尿病療養指導士の育成
糖尿病認定看護師の育成 糖尿病認定看護師を育成する。							
血液浄化件数の維持 積極的な患者の受け入れを行い、安心安全な透析医療の充実を図る	8床のコンソールのオンライン対応化を図った。	12床のコンソールのオンライン対応化を図った。	個人用透析装置の導入に向けての取組みを開始した。	各部署での個人用透析装置の運用を図る。	各部署での個人用透析装置の運用を図る。	各部署での個人用透析装置の運用を図る。	各部署での個人用透析装置の運用を図る。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 各科の診療ニーズに対応する。	HDを始め、特殊血液浄化にも24時間体制で取り組みを行った。	感染対策を始め、各科の診療ニーズの対応を行った。	感染対策を始め、各科の診療ニーズ対応を行った。	各科の診療ニーズに対応する。	各科の診療ニーズに対応する。	各科の診療ニーズに対応する。	各科の診療ニーズに対応する。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
入院血液浄化件数	（件）	1,029	1,054	968	1,000	1,000	1,000	1,000
外来血液浄化件数	（件）	6,030	6,464	5,679	6,000	6,000	6,000	6,000
栄養指導件数	（件）	1,918	2,220	2,263	2,000	2,000	2,000	2,000
NST介入件数 （栄養サポートチーム）	（件）	1,300	1,301	1,305	1,300	1,300	1,300	1,300

No.4　特色ある医療の提供
精神疾患

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
認知症疾患センターの指定 認知症疾患における鑑別診断、地域における医療機関等の紹介、問題行動への対応についての相談受付などを実施する。	鑑別診断件数145	鑑別診断件数139	鑑別診断件数102	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150	鑑別診断件数150
精神科リエゾンチーム加算の算定 精神科リエゾンチーム加算の算定に向けたチームの結成を進める。	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保	常勤医の確保
特定研修施設の指定 リエゾン専門医を目指す特定研修施設の指定を受け、スタッフを育成する。							
がん患者の心のケア（サイコオンコロジーの領域）							

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
入院精神療法件数	（件）	147	384	448	500	500	500	500

No.5　特色ある医療の提供
救急・災害への対応強化

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
災害備蓄品の確保 災害備蓄品（薬品、材料、食品）を3日分確保する。必要な数量・消費期限を定数管理し、更新等による経費負担を平準化する。	患者分だけでなく、災害時従事者用備蓄食品（3日分）購入	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新	随時更新
DMATチームの充実 DMAT隊員の強化（人数増員、訓練・研修会参加）を図り、災害拠点病院として積極的に災害派遣を行う。	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成	DMAT隊員新規養成
医療救護班の充実 医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う。	R2.2.9西脇市総合防災訓練	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う	医療災害訓練の積極的な参加により医療救護のスキルアップを図り、災害、救急対応を行う

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
災害訓練への参加	（件）	3	1	2	3	3	3	3
災害訓練の実施	（件）	2	1	1	1	1	1	1
救急搬送件数	（件）	3,179	3,185	3,129	3,200	3,200	3,200	3,200

No.6　チーム医療の推進

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
薬剤師の入院棟配置 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	新たな病棟担当者の育成着手。現員数で複数人体制は難。非担当者が担える範囲の業務を代行。	定員を含む退職者複数人。再雇用不透明で人員増は難。非担当者が担える範囲の業務を代替。	人員増と人材育成を推進。担当を複数人とし、業務の空白をなくし充実を図る。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を目指す。	病棟業務の空白化を回避するため、再雇用者による業務継続が可能な間に、人員増と育成を推進。	再雇用者の年限となることもあり、人員の育成に注力し、業務量の維持・推進を図る。	人員の育成と業務の効率化を図り、病棟での業務量の拡充と充実を図る。
周術期等の口腔機能の管理 周術期に専門的な口腔管理を行うことで、呼吸器系合併症の軽減や抗がん剤、放射線治療による粘膜病変を軽減する。手術周期、高齢者の誤嚥性肺炎の防止などを目的とした活動を推進する。							
糖尿病教育チーム活動の推進 糖尿病透析予防指導による生活習慣病対策を推進する。							
認定看護師の資格取得支援 より高い医療サービスを実現させるため、優秀なスタッフの育成に努めるとともに、認定取得を積極的に支援する。	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人
臨床研修指導医の資格取得 厚労省が認定する臨床研修指導医講習を計画的に受講し、指導医数の充実を図る。	2人	0人	2人	2人	2人	2人	2人
地域看護力の向上 地域看護の質向上と担保に向けた看護教育研修センターでの、充実した研修を提供する。年間12回以上の開催を目指す。							

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
NST介入件数【再掲】 （栄養サポートチーム）	（件）	1,300	1,301	1,305	1,300	1,300	1,300	1300
緩和ケア介入件数	（件）	58	44	53	50	50	50	50
褥瘡対策チーム介入件数	（件）	286	338	313	－	－	－	－
VAP介入件数 （人工呼吸器関連肺炎対策チーム）	（件）	116	97	150	－	－	－	－
ICT介入件数 （感染制御チーム）	（件）	964	821	1,052	－	－	－	－
認定看護師	（人）	0	1	1	1	1	1	1
臨床研修指導医	（人）	2	0	2	2	2	2	2

No.7　医療安全・感染対策の強化

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
職員の感染予防 病院に勤務する職員にB型肝炎ワクチンやインフルエンザワクチンを予防接種することにより、職員への感染を未然に防ぐ。	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施	新規採用職員、前年度ワクチン接種者に実施。抗体が基準値未満の職員を対象にワクチン接種を実施
医療事故の防止 医療安全研修会を定期的に開催するとともに、インシデント発生時には報告を徹底させ、原因の分析を行い、安心で安全な医療の提供に努める。	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム構築	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続	院内発生の事故分析と対策の情報共有システム継続

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
インシデント発生報告件数	(件)	900	1,062	1,033	1,500	1,500	1,500	1,500
院内医療安全研修会開催件数	(件)	2	1	2	2	2	2	2
院内感染対策研修会開催件数	(件)	6	2	2	4	4	4	4
感染対策委員会開催件数	(回)	22	12	13	12	12	12	12
入院後鼻腔MRSAスクリーニング陽性率	(%)	2.2	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
VAP介入件数（再掲） （人工呼吸器関連肺炎対策チーム）	(件)	116	97	150	－	－	－	－

No.8　収入の確保
入院収益の確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
7対1入院基本料の維持継続 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する。	→ 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する	→ 看護師数、平均在院日数、看護必要度等施設基準の確保を推進する
診療報酬改定の対策 2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する。	→ 2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する	診療報酬改定	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する	診療報酬改定	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する	診療報酬改定	2年毎に改正される診療報酬の対策を図り、収益を確保する
DPC分析 DPC分析データに基づく病院指標の作成と公開を行う。	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	退院患者統計資料作成とホームページへの掲載	→ 退院患者統計資料作成とホームページへの掲載

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
1日平均入院患者数	（人）	292.0	286.8	268.2	272.8	295.0	297.0	297.0
病床稼働率	（%）	91.3	89.6	88.2	89.7	90.0	92.2	92.2
1人1日入院診療単価	（円）	50,073	51,233	53,275	53,500	54,150	55,000	55,000

No.9　収入の確保
外来収益の確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
救急患者の積極的な受入れ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する。	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する	→ 消防からの受入れ体制（受入時間等）等を強化する
専門・特殊外来の設置 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者のニーズに沿った医療を提供する。	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する	→ 高度で、専門性の高い医師の配置により、患者ニーズに沿った医療を提供する

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
1日平均外来患者数	(人)	477.0	436.5	453.6	450.0	480.0	500.0	500.0
1人1日外来診療単価	(円)	14,322	15,168	16,255	17,000	17,000	17,000	17,000
救急搬送件数(再掲)	(件)	3,179	3,185	3,129	3,200	3,200	3,200	3,200

No.10　収入の確保
検診・健診への積極的な取組

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
人間ドックのレベルアップ 受診者が安心して健診を受けられるよう人間ドック健診施設機能評価の認定取得を目指す。	機能の維持。オプション検査等の検討。	機能の維持。オプション検査等の検討。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。	機能の維持。オプション検査等の検討。予約枠の拡大。
オプション検査の充実 必要な健診が受けられるよう検査内容の充実を目指す。	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする	検査内容のメリットをPRする
利便性の向上（受診枠の見直し） 使用する医療機器、検査担当技師等を増やし、受診枠の拡大に向けた見直しを計画する。	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約と見直し	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約	受診枠の流動的な予約

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
成人病検診	（人）	817	905	980	980	980	980	980
一泊人間ドック	（人）	48	33	38	50	50	50	50
日帰り人間ドック	（人）	538	478	514	500	500	500	500
脳ドック	（人）	176	117	137	150	150	150	150
乳腺ドック	（人）	21	25	13	25	25	25	25
乳児・新生児健診	（人）	301	317	264	300	300	300	300
妊婦検診	（人）	2,051	2,309	2,026	2,100	2,100	2,100	2,100

No.11　収入の確保
収入の確実な確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
職員夜間訪問徴収の実施 定期的に夜間訪問により徴収する。	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼	夜間徴収・昼間徴収・督促依頼
院内診療報酬研修会の実施 院外講師及び医事課職員による職員研修会を実施する。	診療科カンファレンスにて情報提供、フィードバック	レセプト査定・返戻のフィードバック	診療報酬改定に向けた情報提供。レセプト査定・返戻のフィードバック	レセプト査定・返戻のフィードバック	診療報酬改定に向けた情報提供	レセプト査定・返戻のフィードバック	診療報酬改定に向けた情報提供

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
過年度個人未収金	（千円）	30,683	33,742	36,231	29,000	29,000	29,000	29,000
院内診療報酬研修会開催件数	（回）	3	3	3	2	2	2	2

No.12　支出の削減
給与費、材料費、経費の削減

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
材料費(薬品費)比率の削減 見積もり合わせの手法を協議し、削減に努める。	→	→	→	→	→	→	→
材料費(診療材料費)比率の削減 SPDの効率化を進める。	→	→	→	→	→	→	→
経費比率の削減 光熱水費等、より効率的な削減・節減に努める。	→	→	→	→	→	→	→
給与費比率の削減 収益効果の高い人材を確保する。	→	→	→	→	→	→	→

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
材料費比率(医業収益対比)	(%)	20.7	22.9	24.5	24.1	22.1	21.8	21.8
経費比率(医業収益対比)	(%)	19.6	20.7	21.6	23.2	21.2	20.9	20.9
給与費比率(医業収益対比)	(%)	59.8	61.7	63.8	62.7	58.2	57.5	57.6

No.13　適切な投資・施設整備管理

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
電子カルテシステムの更新 現システムの問題点を洗い出すとともに各社新機種の性能比較などを十分に行い、よりよい電子カルテシステム環境の構築を目指す。	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う	富士通との定例会を行う
医療機器整備計画の策定 専門性の高い高度医療機器や患者ニーズの高い各種検査機器を計画的に導入することにより、よりよい医療を提供する。	放射線治療装置（リニアック）整備	放射線治療装置（リニアック）整備					
資産の効率的な運用 利用頻度の少ない一戸建て医師公舎の運用を検討する。							

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
機器整備金額(システム)	千円	149,853	541,521	116,217	280,000	1,210,000	458,000	374,000
機器整備金額(機器)	千円							

No.14　医療技術部門の強化
薬剤部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
薬剤師の入院棟配置【再掲】 入院時における薬剤師の役割の拡大、医師、看護師の負担軽減とともに、更なる医療の質の向上を図る。	新たな病棟担当者の育成着手。現員数で複数人体制は難。非担当者が担える範囲の業務を代行	定員を含む退職者複数人。人員増とならない中で、定年退職者すべてに雇用継続をいただき、業務を維持。	人員増と人財育成を推進。担当を複数人とし、業務の空白化をなくし充実を図ることを目指したが、人員増とはならず。	業務の維持、及び拡大を図るため、人材の育成を推進し、また業務の空白化の回避と充実を目指す	病棟業務の空白化を回避するため、再雇用者による業務継続が可能な間に、人員増と人材の育成を推進	再雇用者の年限となることもあり、人員の育成に注力し、業務量の維持・推進を図る	人員の育成と業務の効率化を図り、病棟での業務量の拡充と充実を図る
抗がん剤調製の100%実施の維持 急激な件数増加に対処するため、休日対応も含め、調製人員の増強を図る。	確かな技術を継承できる調製者の育成。抗がん剤による汚染度合いの調査を開始した	確かな技術を継承できる調製者の育成。抗がん剤による汚染度合いの調査を実施し、評価を行った。	確かな技術を継承できる調製者の育成。抗がん剤による汚染度合いの調査を実施し、評価を行った。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全抗がん剤調製へのクローズドシステム導入と全館的な抗がん剤の被曝低減策を推進。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。	確かな技術を継承できる調製者の育成。全館的な抗がん剤被曝の低減策を推進。
後発医薬品の採用促進 数量ベースでの増加を目指すため、後発医薬品の採用を進める、高額医薬品については後発医薬品が発売されれば変更を行う。	後発品使用体制加算1である85%以上を維持できた	後発品使用体制加算1である85%以上を維持できた	後発品使用体制加算1である85%以上を維持できた	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を目指す	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を目指す	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を目指す	後発品使用体制加算2の要件である85%以上を堅持し、加算1取得のため90%以上を目指す
医薬品情報等の情報提供強化 イントラネットを利用した情報発信に加え、メール等による発信にも取り組む。	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し、実施した	医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また状況に応じて、研修会・説明会等を企画し、実施した	NeWS等による医薬品情報や薬事委員会報告の配信、また研修会・説明会等を企画し実施した	前年度内容＋情報発信ツール等の変更や更新があるなら随時合わせて対応する	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する	NeWSまた新たな発信ツールがあれば、それらを利用した医薬品情報等を発信。また研修会・説明会等を企画・実施する
ポリファーマシー対策 薬物有害事象のリスク低下や服薬アドヒアランス向上、薬剤費の削減を目指す。			病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用その他において薬剤の適正使用に関与できた	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する	病棟薬剤師による薬剤の管理を通し、多剤服用におけるリスク回避に介入する

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
ハイリスク指導件数	(件)	4,203	5,228	5,483	4,800	4,800	4,800	4,800
その他指導件数	(件)	6,654	5,994	5,477	6,000	6,000	6,000	6,000
薬剤師数（各年度3月末現在）(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	17	17	17	20	20	20	20

No.15　医療技術部門の強化
検査部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
検査技師の人材確保・育成とスキルアップ 技師確保と育成、技師の専門性あるスキルアップ。	新人技師2人増加、特定化学物資及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習免許・検体検査管理責任者免許取得。	新人技師1人増加、検査技師として、細胞検査士としても人材育成をはかる。遺伝子検査導入に伴い検査可能技師の育成を行う。	新人技師一人追加あるが、退職者一人出たため目標技師数に達していない。正規職員が一人会計年度職員になったため当直やLAMP検査対応技師が減った。	新人技師一人増加と人材育成。再雇用者の業務継続。エコー検査士、認定輸血検査士ほか認定資格の取得。エコー技師、細胞検査士のスキルアップ。骨髄検査対応技師の充実。	新人技師の育成。各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。医療安全管理者の養成。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。細胞検査士のスキルアップを行い迅速細胞診に備える。医療安全管理者の養成。エコー担当者の養成。退職予定者からのスムーズな業務引き継ぎ。	各種資格の取得。エコー担当者の養成。ベテラン退職者からのスムーズな業務引き継ぎ。聴力検査の担当者を増やす。
各科からの検査要求対応 各種、臨床からの要求ある検査への対応。	心・血管エコー施行可能技師6人に増加、マルク検査を含む検査結果の迅速報告。	心・血管エコー施行可能技師6人に、マルク結果の迅速報告、新型コロナの抗原検査・Lamp法の導入、血液ガスのパラメータ増加、精密SAS検査を1泊にし生理検査で管理開始。	Lamp検査を夜間・休日にも対応。骨髄検査の当日結果報告。手術別の出血量と輸血率算出、FFP在庫ゼロ、製剤の期限を院内に周知させ廃棄率低減対策。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。B-2MG検査開始	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。	緊急検査要求に対する柔軟な対応と正確で迅速な結果報告。Lamp法を夜間・休日も実施。休日の大腿骨頸部骨折への対応。骨髄検査の当日報告。
院内チーム医療への参画と協力 チーム医療：感染管理、栄養サポート、糖尿病療法指導等への参画と協力。	研修医への腹部エコー講習会実施、術中モニタリング検査の臨床工学技士との共有。	ICT・AST・NST・糖尿病療養指導・臓器提供委員会への参画と協力、ICT・AST参画技師1人増加。	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化	ICT・AST・NST・糖尿病教育チーム・臓器提供委員会・GASTへの参画と協力。NSTへの介入の強化

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
超音波検査数	（件）	8,520	9,020	9,265	9,300	9,400	9,560	9,580
肺機能検査数	（件）	1,772	1,358	1,662	1,600	1,600	1,650	1,700
脳波検査数	（件）	261	191	182	200	200	220	240
ABI検査数	（件）	637	614	577	600	600	630	650
心電図検査数	（件）	8,910	8,864	8,842	8,900	9,000	9,050	9,100
臨床検査技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	17	17	17	18	19	19	19

No.16　医療技術部門の強化
放射線部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
3.0テスラMRIの運用 地域の医療機関との連携を強化し、院外からの受託件数を増やす。	撮影枠を増やす。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコルを見直し、より良い画像を提供する。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取り組み。	撮影プロトコル見直しによる新しいアプリケーションへの取り組み。
スタッフの育成 認定資格の取得による技術力の向上を目指す。	新人技師の育成と合計7人以上の認定技師の取得。	モダリティー専任技師の育成。	モダリティー専任技師の育成。	新人技師の育成とモダリティー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。	認定資格取得によるモダリティー専任技師の育成。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
アンギオ件数	(件)	379	398	314	350	350	375	375
骨塩定量件数	(件)	1,156	1,022	1,102	1,200	1,200	1,200	1,250
一般撮影系件数	(件)	24,983	22,844	22,959	24,000	24,000	24,000	24,000
CT 件数(再掲)	(件)	16,194	16,058	16,677	16,750	16,750	16,750	16,750
MRI 件数(再掲)	(件)	6,188	5,678	5,389	5,750	5,750	5,750	5,750
ＲＩ件数(再掲)	(件)	304	436	512	525	525	525	525
マンモ件数(再掲)	(件)	1,510	1,248	1,417	1,500	1,500	1,500	1,500
放射線治療件数(再掲)	(件)	1,983	636	1,547	2,000	2,100	2,100	2,100
診療放射線技師数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	16	16	14	16	17	17	17

No.17　医療技術部門の強化
リハビリテーション部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
施設基準の維持 地域包括ケア病棟の施設基準であるリハビリ2単位以上を維持する。 回復期リハビリテーション病棟開設に伴う施設基準の充実を行う	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。	施設基準を維持。リハ部門の充実。
充実したリハビリの提供 1日1人取得目標単位数を18単位とする。	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位	目標18単位
リハビリ治療3連休の解消 継続的な入院リハビリ治療を充実する。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。	継続的な入院リハビリ治療を充実。
スタッフの育成 特に診療報酬に影響する資格取得に努める(例:骨粗鬆症マネージャー、リンパ浮腫複合的治療研修等。その他、当院のチーム医療に関連する糖尿病療養指導士、呼吸療法認定士、腎臓リハビリなどの資格取得を行ったり、当院リハビリ対象者に関連する自己研鑽に努める。	運動器認定理学療法士、リンパ浮腫複合的治療研修等	がんリハ研修会に参加、呼吸療法認定士、糖尿病療養指導士	がんリハ研修会に参加、呼吸療法認定士、糖尿病療養指導士	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。	診療報酬関連やチーム医療に必要な資格取得に努める。
院内外に向けたリハビリ啓発活動(地域リハビリテーション活動の強化) 地域支援事業への職員派遣(フレイル予防訪問指導事業、住宅改修・福祉用具適正化事業、認知症初期集中支援チーム員会議、自立支援型地域ケア会議) 地域住民に向けた研修会の講師。 院内でのリハビリ関連の実技指導や勉強会開催。	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加	研修会実技指導、介護予防事業参加

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
脳血管疾患リハ単位数	(件)	26,442	29,877	27,529	30,500	33,500	38,500	38,500
廃用症候群リハ単位数	(件)	18,703	14,602	18,421	20,400	22,400	25,700	25,700
運動器リハ単位数	(件)	14,474	19,893	20,458	22,700	24,850	28,500	28,500
呼吸器リハ単位数	(件)	263	4,943	6,925	7,700	8,400	9,650	9,650
摂食療法リハ単位数	(件)	1,189	924	1,006	1,115	1,215	1,400	1,400
がん患者リハ単位数	(件)	452	150	254	285	300	350	350
理学療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	12	14	15	16	17	17	17
作業療法士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	7	7	7	9	10	10	10
言語聴覚士数(各年度3月末現在)(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	4	4	5	6	6	6	6

No.18　医療技術部門の強化
栄養部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
専門知識を持つスタッフの育成・スキルアップ 研修会及び勉強会へ参加し、専門的技術の習得をめざす。糖尿病療養指導士、NST専門療法士、がん専門認定栄養士などの育成を行う。		NSTセミナーへの研修参加予定	NST専門療法士資格2名更新。がん専門病態栄養専門管理栄養士、兵庫県糖尿病療法士資格更新のための研修参加。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。日本糖尿病療養指導士の育成。	NST40時間研修への参加。各種研修への参加によりスキルアップを図る。日本糖尿病療養指導士の育成。		
食事満足度の向上 食事満足度アンケートの実施により、嗜好に応じた食事内容の検討。院内基準の定期的な見直しにより、食事満足度の向上を図る。	7月、8月、2月に実施。	8月、2月に実施予定。	アンケートを年2回実施。緩和ケア食の検討・導入、はなまるランチ・ドック食、分娩食のリニューアル検討・実施、糖尿病食の院内基準の見直し	アンケートを年2回実施。緩和ケア食の検討・導入、糖尿病食の院内基準の見直し	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討	アンケートを年2回実施。各食種の見直し・検討
チーム医療への参画・協力 病棟担当制により、多職種との連携を強化し、患者サービス及び予防医療の普及をめざす。		管理栄養士数の維持。病棟訪問を強化し、栄養指導件数の増加へつなげる	管理栄養士数の維持により、病棟訪問を強化し、各チーム医療へ参加した。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。	病棟担当制を維持し、適切な栄養管理に努める。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
栄養指導件数	(件)	1,918	2,220	2,263	2,000	2,000	2,000	2,000
糖尿病教室	(回)	8	10	0	0	0	0	0
糖尿病透析予防指導管理料	(件)	83	84	80	50	55	60	60
NST介入件数 (栄養サポートチーム)	(件)	1,300	1,301	1,305	1,300	1,300	1,300	1,300
管理栄養士数（各年度3月末現在）(嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む)	(人)	5	7	7	7	7	7	7

No.19　医療技術部門の強化
臨床工学部

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
スタッフの育成 各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	心カテ検査、心カテ治療の清潔介助に取り組んだ。各種機器の検査が円滑に行えるようになった。またペースメーカーの遠隔モニタリングにも取り組んだ。	心カテ検査、心カテ治療の清潔介助に取り組んだ。各種機器の検査が円滑に行えるようになった。またペースメーカーの遠隔モニタリングにも取り組んだ。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指した。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。	各種臨床業務に対応できるようスタッフの育成を図り、業務の拡大を目指す。
ME機器保守管理 安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。また透析機器も含めた定期的なメンテナンスによるME機器の保守点検費用の削減及びメーカーによる修理費用の削減を図る。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	病棟ラウンドを始め、院内の医療機器が安心安全に使用が出来るように努めた。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。	安心できる医療の提供のため、ME機器の保守管理を充実させる。
各科の診療ニーズに対応した技術提供 血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	OP室業務の術中モニタリングの習得に努めた。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行った。。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行い、医師との信頼性の向上に努めた。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。	血液浄化業務、心カテ業務、手術室業務、ICU業務などの臨床で、医療機器操作などの技術的サポートを行っていく。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
ペースメーカー件数	(件)	113	94	94	100	100	100	100
心臓カテーテル件数	(件)	68	66	69	80	80	80	80
入院透析件数（再掲）	(件)	1,029	1,054	968	1,000	1,000	1,000	1,000
外来透析件数（再掲）	(件)	6,030	6,464	5,679	6,000	6,000	6,000	6,000
臨床工学技士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	(人)	5	5	5	5	5	5	5

No.20　患者満足度の向上

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
意見箱の設置 意見箱を院内数か所に常設し、患者をはじめ来院者に意見や感想を記入いただき、医療サービスの改善に努める。	→	→	→	→	→	→	→
	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上	医療サービスの質の向上
患者アンケートの実施 1年に数回、入院・外来患者にアンケート記入に協力いただき、サービスの向上を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
	新型コロナウイルス感染防止のため中止。	新型コロナウイルス感染防止のため中止。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。	年1回程度実施。改善項目の洗い出し。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
患者アンケート実施回数	(回)	0	0	1	1	1	1	1
患者アンケートの回答数	(数)	0	0	468	600	600	700	700
患者アンケートによる改善事項	(数)	0	0	2	5	5	5	5

No.21　医師・看護師等の確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
医師公舎の改修 築年数、老朽度、必要数量を基に、適切な公舎維持を図り、働きやすい環境を整える。	→	→	→	→	→	→	→
医師確保 病院機能として必要な専門医等の確保を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
看護師確保 修学資金制度を継続して実施する。	→	→	→	→	→	→	→
	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。	→	→	→	→	→	→	→
医師事務作業補助者の確保 配備により、医師の事務処理負担の軽減を図る。「医師事務作業補助体制加算30:1」を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成	人員確保と人材育成

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
医師数（各年度3月末現在）	（人）	53	53	56	56	56	56	56
研修医数（各年度3月末現在）	（人）	14	14	13	14	14	14	14
看護職員数（各年度3月末現在）	（人）	265	271	268	272	273	273	274
奨学資金貸与者数	（人）	20	11	10	10	10	10	10
医師事務作業補助者数	（人）	8	8	8	11	11	11	11

No.22　医療技術職員の確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。							
医療技術職員の確保 病院機能として必要な専門技術職員等の確保を目指す。新型コロナ感染対策やリハビリの機能の充実のため、薬剤、検査、リハビリ等必要な人員確保を目指す。	88人	93人	97人	105人	109人	109人	109人

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
診療放射線技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	16	16	14	16	17	17	17
臨床検査技師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	17	17	17	18	19	19	19
理学療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	12	14	15	16	17	17	17
作業療法士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	7	7	7	9	10	10	10
言語聴覚士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	4	4	5	6	6	6	6
薬剤師数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	17	17	17	20	20	20	20
管理栄養士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	5	7	7	7	7	7	7
臨床工学技士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	5	5	5	5	5	5	5
社会福祉士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	4	4	4	6	6	6	6
精神保健福祉士数（各年度3月末現在）（嘱託・フルタイム会計年度任用・再任用含む）	（人）	1	2	2	2	2	2	2

No.23　医療分析・経営分析に向けた職員の確保

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
人材育成 スキルアップのための研究・研修会への参加を支援する。	→	→	→	→	→	→	→
医療分析・経営分析に向けた職員の確保 病院機能として必要な医療・経営分析職員等の確保を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
医療分析・経営分析 医療分析（EVE）の活用	→	→	→	→	→	→	→

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
診療情報管理士数（各年度3月末現在）	（人）	4	4	4	4	4	4	4
医事課専門職員数	（人）	2	2	2	2	2	2	2

No.24　研修・研修制度の充実及び意欲向上

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
院内研修 参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する。	新型コロナの影響により接遇研修は中止	新型コロナの影響により交通安全研修は中止	新型コロナの影響により交通安全研修は中止	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する	参加しやすい時間帯や内容を配慮しながら人権研修や接遇研修、交通安全研修などを実施する
院内・院外発表 院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外の発表会へも積極的な参加を促す。	院内研究発表会2回開催。合計8名の発表。	院内研究発表会2回開催。合計7名の発表。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。	院内発表会を定期的に開催し、成果発表の場を確保する。また、機会があれば、院外へも積極的な参加を促す。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
院内研修会開催件数								
人権研修	(回)から(参加者数)に変更	69	WEB 496	WEB 416	WEB 400	WEB 400	WEB 400	WEB 400
接遇研修	(回)から(参加者数)に変更	中止	WEB 401	WEB 375	WEB 400	WEB 400	WEB 400	WEB 400
交通安全研修	(回)から(参加者数)に変更	311	中止	中止	340	340	340	340
院内・院外発表件数								
院内発表会	(件)	2	2	2	2	2	2	2
院外発表会	(件)	6	0	0	5	5	5	5
職員アンケート	(回)	2	2	2	2	2	2	2
職員提案	(数)	1	1	1	10	10	10	10
職員提案に改善した事項	(数)	1	1	1	2	2	2	2

No.25　病病・病診連携の強化

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
地域医療支援病院の要件維持 地域医療連携室だよりを発行し、新設科及び院内の診療科や検査、チーム医療等を広報することで紹介率の向上を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
パスによる連携強化 地域連携クリニカルパスによる病診連携の強化を図る。（脳、骨、がん）	→	→	→	→	→	→	→
地域医療機関との連携 病院及び施設・事業所の訪問、事例検討や講演会等の開催を推進する。	→	→	→	→	→	→	→
入退院支援・調整の充実 入院前から、退院後まで院内外の多職種との連携を密に行うことで、患者家族が安心できる入退院支援や調整を目指す。	→	→	→	→	→	→	→
地域医療システムの充実 地域医療システム「北はりま絆ネット」の運用拡大を図る。	→	→	→	→	→	→	→
在宅療養支援の充実 訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療を行う（特定の患者に訪問を実施し、地域のリソースと連携する）			訪問看護の準備開始（実施計画立案）	訪問看護の準備	訪問看護実施	訪問看護実施、訪問リハビリ準備	訪問看護実施、訪問リハビリ実施、訪問診療準備

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
紹介率	(%)	65.5	69.5	66.4	66.0	68.0	69.0	70.0
逆紹介率	(%)	71.9	74.4	72.2	65.0	65.0	65.0	65.0
入退院支援加算1	(件)	2,395	3,063	2,992	2,130	2,500	2,500	2,500
介護支援連携指導料	(件)	561	448	299	300	360	360	360
退院時共同指導料2	(件)	86	92	74	75	80	80	80
地域連携診療計画加算（脳パス）	(件)	128	129	104	100	100	100	100
地域連携診療計画加算（骨パス）	(件)	63	93	77	70	70	70	70
がん治療連携計画策定料Ⅰ（がんパス）	(件)	10	9	17	11	11	11	11
院外者を対象とした研修会、症例検討会、講演会の開催回数	(回)	27	2	14	12	12	12	12

No.26　地域医療を守る活動の支援

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
病院フェスタの開催 地域医療への理解促進を図り、病院の現状、医療の大切さを理解してもらう。また、様々なイベントを通じ、親しまれる開かれた病院づくりを目指す。	7月27日開催	コロナの影響により中止。	コロナの影響により中止。		7月頃	7月頃	7月頃
ボランティアの受入れ ボランティア活動の円滑化及びボランティアの積極的な受け入れによって、患者サービスの充実・向上を図る。市民との交流とともに、地域に信頼される良質な医療の提供に努める。	縫製ボランティア依頼	適宜受け入れる	適宜受け入れる	適宜受け入れる	適宜受け入れる	適宜受け入れる	適宜受け入れる

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
病院フェスタ来場者数	（人）	2,600	中止	中止	中止	2,500	2,500	2,500

No.27　情報発信の強化

取組内容	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度	5年度	6年度	7年度
ホームページの充実 新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	ホームページの見直し。広報研修委員会にて改修。	4月より新ホームページにて運営。ページの充実、更新、	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。	新着情報の随時更新やタイムリーな情報の発信に努める。
広報紙の発行 見やすく、親しみやすい紙面づくりに努める。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。	広報にしわきに定期掲載。
教室・セミナーの開催 誰もが気軽に参加できる教室やセミナーを企画し、開催する。	年間10回開催。3月についてはコロナの影響により中止。	コロナの影響により中止。	コロナの影響により中止。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。	健康セミナーの担当等見直し。

数値目標	単位	R元年度（実績）	2年度（実績）	3年度（実績）	4年度（目標）	5年度	6年度	7年度
院内紙（ふれあい通信）	回	4	4	3	4	4	4	4
院外紙（ハートtoハート）	回	2	2	2	2	2	2	2
紀要	回	1	1	1	1	1	1	1
健康セミナー	回	10	中止	中止	11	11	11	11